

交流館に関する現状調査「アンケート及びヒアリング」結果について

資料 1

1 調査概要

交流館の利用実態や市民意識を把握するため、市民等(市民、企業、職員、地域団体等)にアンケート及びヒアリングを実施しました。

属性	調査期間	対象者	調査方法及び回答数
(ア)市 民	令和6年9月5日～30日	無作為抽出の満18歳以上の市民(5,482人)	・電子アンケート ・1,916人
(イ)企 業	令和6年9月3日～24日	とよたSDGsパートナー(224団体)	・電子アンケート ・41団体
(ウ)職 員	令和6年9月3日～24日	交流館職員(館長、主任主事、主事)	・電子アンケート ・109人
(工)地域団体等	令和6年8月1日～30日	地域団体関係者(コミュニティ、学校、事業者、市民活動団体)	・ヒアリング ・26人
(オ)テーマ別 (こども、共生)	令和6年9月8日、27日	・審議会委員 ・こども会議委員	・ワークショップへの参加、ヒアリング

2 市民アンケート

<調査結果(抜粋)>

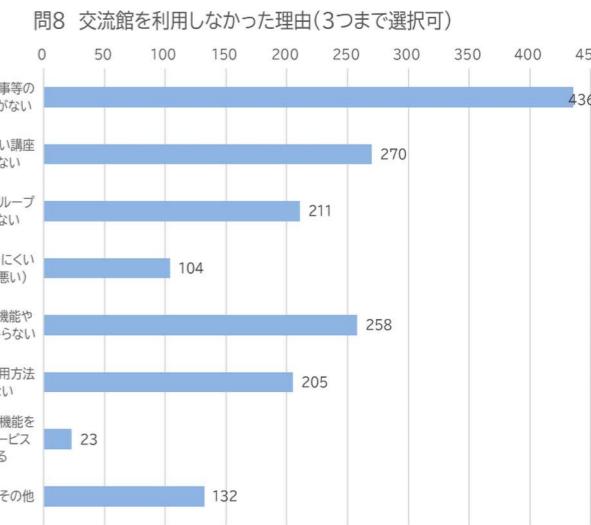
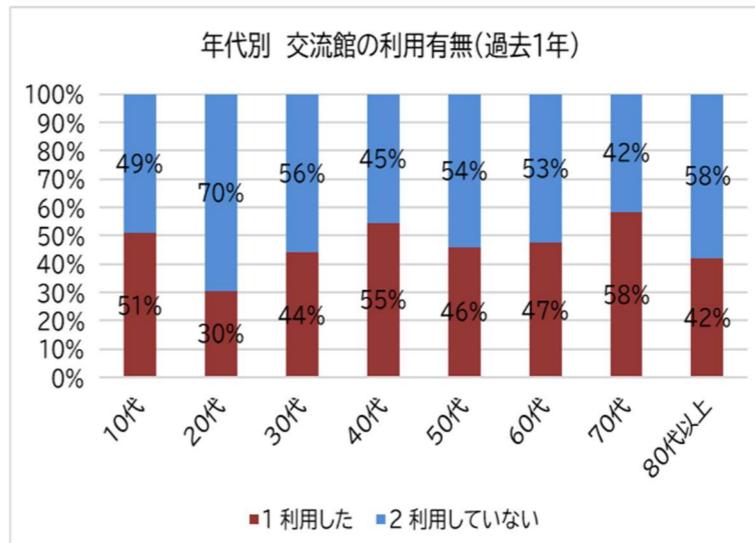
- ① 交流館を過去1年間に利用したことがある市民の割合は47%です。一方で、市民の53%は過去1年間に交流館を利用ていません。特に20代では、70%が利用していません。
- ② 交流館を利用しなかった理由は、多い順に「家庭や仕事等で時間がない」「参加したい講座や事業がない」「交流館にどんな機能や事業があるかわからない」となっています。
- ③ 利用している市民の58%は居住地区以外の交流館も利用しています。
- ④ 利用目的は、多い順に「図書利用」「教養趣味のサークル活動」「講座・イベントへの参加」となっています。交流館は、利用していない人も含めて「図書利用や講座イベントが実施されている場」として認識されています。
- ⑤ 交流館に期待することについて、年代別にみると、10代・20代では主に「くつろくことができ、気軽に立ち寄ることができる」とこと、50代以上では主に「健康の維持増進を図ることができます」ことが期待されています。具体的な機能として「wi-fi」「テレワーク」「フィットネス」「カフェ」が多く挙げられています。

3 企業アンケート

<調査結果(抜粋)>

- ⑥ 交流館を過去5年間に利用したことがある企業の割合は27%です。交流館で営利目的の利用ができるとの認知度は32%です。
- ⑦ 交流館で活用してみたい機能として、「部屋の貸出」「事業等での連携」のほか、「地域への情報発信」を希望する回答が多いです。その他、「企業が住民と考えディスカッションできる場」「地域課題やコミュニティ情報の発信が充実すると良い」という意見が挙げられています。

【市民】調査結果① 過去1年間の交流館利用状況(年代別) 調査結果② 利用しなかった理由

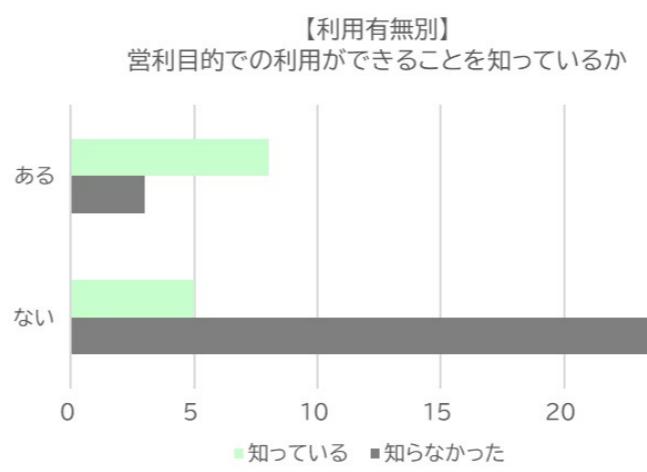


【市民】調査結果⑤ 交流館に期待すること

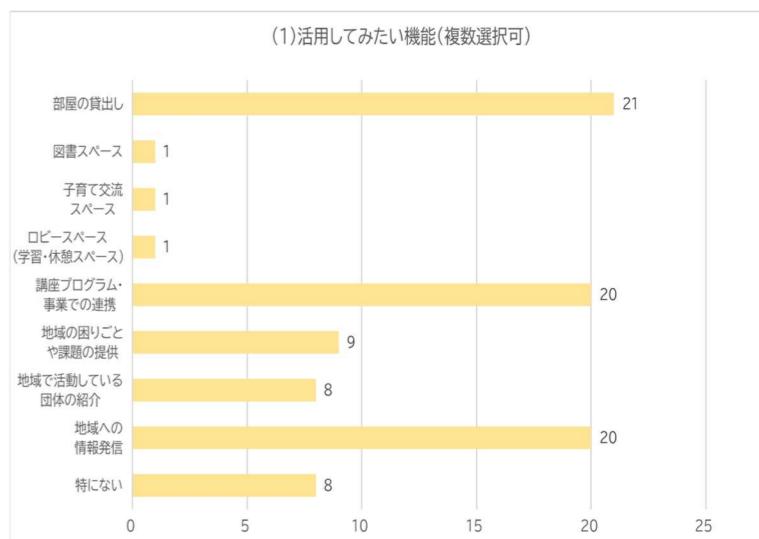
	回答	回答人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
(1)期待すること(複数選択可)	回答	回答人数	66	228	273	387	384	288	209	81
1 趣味を楽しんだり、教養を深めたりすることができる	1,092	57.6%	50.4%	56.8%	58.9%	55.5%	60.1%	64.1%	44.4%	
2 仕事に活かせる学びがある	366	21.2%	26.3%	28.9%	26.9%	19.0%	10.1%	2.9%	1.2%	
3 家庭や日常生活に活かせる学びがある	584	15.2%	28.5%	38.1%	37.2%	29.4%	28.1%	27.8%	11.1%	
4 地域や社会での活動に活かせる学びがある	495	15.2%	17.1%	19.4%	28.7%	29.9%	28.8%	28.2%	30.9%	
5 健康の維持・増進を図ることができます	683	16.7%	21.1%	26.7%	34.6%	41.1%	42.7%	47.4%	45.7%	
6 いろんな人と交流や仲間づくりができる	649	34.8%	27.2%	31.9%	31.5%	29.7%	33.0%	52.2%	45.7%	
7 自分の活動や学んだ成果を発表できる	126	10.6%	4.4%	5.9%	7.8%	4.7%	6.6%	7.2%	13.6%	
8 学んでみたいことややってみたいことの情報が得られる	503	27.3%	26.8%	29.3%	28.4%	24.7%	27.8%	23.9%	11.1%	
9 地域の情報が得られる	538	19.7%	15.8%	24.2%	31.8%	33.9%	29.2%	31.6%	24.7%	
10 くつろぐことができ、気軽に立ち寄れる	788	51.5%	47.4%	41.4%	43.4%	42.7%	39.2%	30.6%	29.6%	
11 その他	98	6.1%	4.4%	5.1%	7.2%	4.2%	3.5%	3.8%	9.9%	

■…1番目に多い ■…2番目に多い ■…3番目に多い

【企業】調査結果⑥ 営利利用の認知度



【企業】調査結果⑦ 交流館に期待すること



※調査結果⑤ ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

4 職員アンケート

＜調査結果（抜粋）＞

- ⑧ 職員の8割は、交流館の業務にやりがいを感じています。交流館業務のやりがいは、「地域・市民活動の支援」「窓口等での地域住民との会話・交流」の場面で感じている職員が多いです。
 - ⑨ 交流館業務における課題や困りごととして、利用が多様化する中での公平な利用ルール(利用料金、予約開始時期など)のあり方、窓口での利用者とのコミュニケーション機会の減少、施設の老朽化等を背景とした施設管理業務への対応について複数挙げられています。
 - ⑩ 交流館は市民にとってどのような場所であるとよいかについて、交流館職員から多く挙げられたキーワードは、「立ち寄れる」「集まる」「憩い」「居場所」です。
 - ⑪ 地区コミュニティ会議業務については、運営に必要な地域の情報やつながりが得られることをメリットに感じています。一方で、デメリットとしては、地域の担い手不足が進行している背景から、活動が事務局主導になってしまう場面が散見され、業務の比重や負担が高まってしまうことを挙げています。実際に、主に事務局業務を担当する主任主事の72%が負担を感じています。

5 地域ヒアリング

〈調查結果(抜粋)〉

- ⑫ 交流館に期待することとして、多く挙げられたキーワードは、設置目的の「学び・交流・活動」以外に「立ち寄れる」「集える」「憩い」「尋ねる」「頼れる」です。

6 テーマ別ヒアリング(こども、共生)

＜調査結果(抜粋)＞

- ⑬ こども視点では、「友だちとワイワイ会話をしながら利用できる場」、地域共生の視点では「お互いの文化を知る交流の場」「障がい福祉サービスの出張作業や販売で、生活介護サービスの散歩コースとして利用できる」とよいという意見が挙げられています。

7 調査結果から見えてきたこと

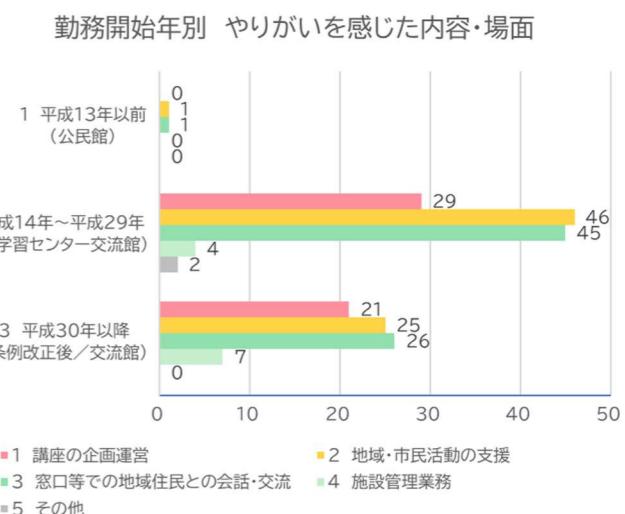
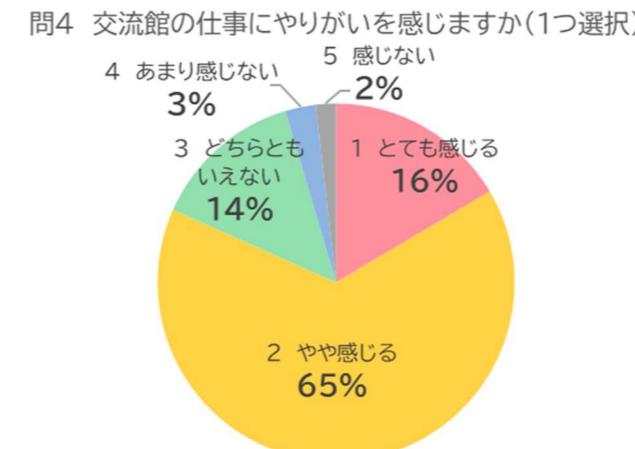
＜交流館の役割について＞

- ・どの属性からみても、「気軽に立ち寄ることができる居場所」としての役割への期待が大きいです。
 - ・その他、「仲間や地域とつながる場所」や「身近で相談ができる場所」としても活用が期待されており、そのような場所を目指すことが交流館職員にとってのやりがいにもつながっています。
 - ・人や地域とのつながりを育む場面や機会を増やしていくことが、交流館職員の意欲を引き出し、交流館の価値を最大限に発揮していくための大きな原動力になります。

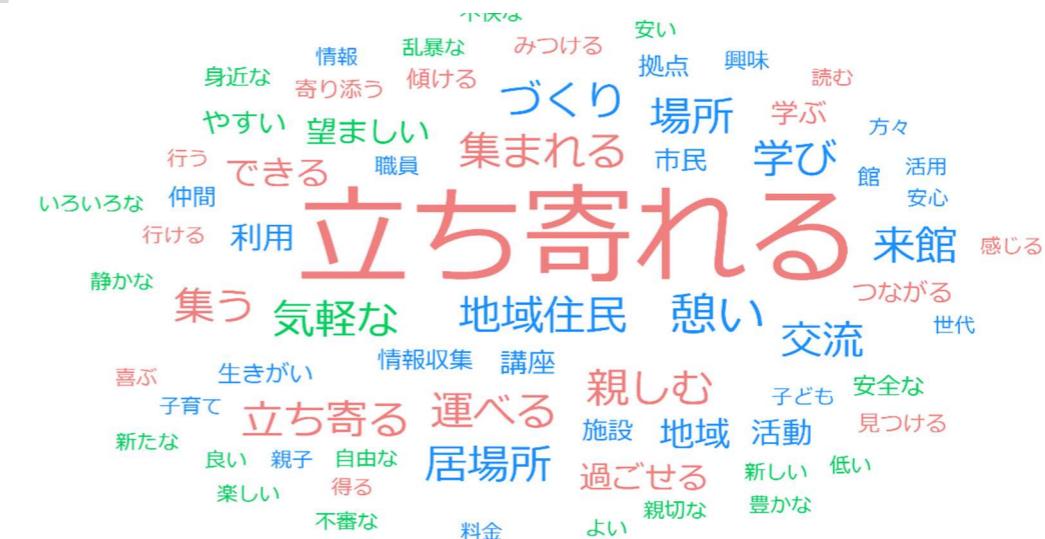
＜交流館の方策について＞

- ・「若者世代の利用促進」「デジタル推進」「情報発信の充実」など、利用のすそ野拡大のために工夫できる余地があります。方策の検討にあたっては、広域的な利用の視点も重要です。
 - ・運営の根幹である維持管理業務や利用ルールの運用については、複数課題が挙げられています。現状ルール見直しを含めて、効果的・効率的な業務のあり方を整理していく必要があります。

【職員】 調査結果⑧交流館業務のやりがい度合、やりがいを感じる場面



【職員】調査結果⑩ 交流館は市民にとってどのような場所であるとよいか



【地域】調査結果⑫ 交流館に期待すること

